



北条っ子 学び通信



令和4年(2022年)12月17日
No.26
豊中市立北条小学校



すくすくウォッチ(わくわく問題)

No.23、No.24、
No.25では、全国学
力学習状況調査の結果につ

いてお伝えさせていただきました。

昨年度からは、大阪府で公立小学校の5、6年生を対象に、読解力や情報活用能力の向上を目的にした独自の新しい学力調査「すくすくウォッチ」がスタートしています。学校や日常生活についてのアンケートも行い、通常の教科テストでは測れない子供たちの個性を発見して伸ばすことがねらいです。

6年生は、全国学力学習状況調査と教科が重なるため、「わくわく問題」とアンケートのみ実施されました。アンケート結果から、本校児童の強みや課題がいくつか見られました。(⇒最終ページ)

わくわく問題では、教科の枠を超えた日常の活動や現代的な諸課題(SDGs、プログラミング的思考)等をテーマにした問題 文章やグラフ、リーフレット等の様々な資料を題材としています。問題をつかみ、資料を読み取ったり思考したりして、自分の考えを表現する力を問う問題が出されました。

わくわく問題は、5年生と6年生で同じ問題が出されました。ほぼ全ての問題において、比較的よくできていましたが、「興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝える」観点についてのみ、課題が見られました。

また、「複数の資料を関連付けて適切な内容を選択する問題」や「複数の意見をその伝えたい内容ごとに分類する問題」において、大きな課題が見られました。

問題①は、SDGs 14「海の豊かさを守ろう」に関連した問題でした。読み取った内容に基づいて考え、自分の意見を持つ態度を育てることを目的とした問題です。身近な産業と環境との関わりに気づき、社会問題に対する意識の向上につなげてほしいというメッセージが込められています。次ページ以降にこの問題を紹介します。

あかねさんたちは、大阪湾をテーマに調べたことを壁新聞にまとめるために、わりつけと記事を考えています。

大阪湾新聞

5月10日
5年1組2班

豊かな海 大阪湾

昔、大阪湾は、たくさんの魚がとれる海だったので、「魚(な)の庭」と呼ばれていました。それをちぢめた「魚庭(なにわ)」から、大阪のことを「なにわ」というようになったという説があります。

今も大阪湾では、イワシの仲間や、シラス(ほとんどがカタクチイワシの子ども)がたくさんとれます。それ以外にも、アジやヒラメ、サワラなどの魚もとれます。そんな豊かな海、大阪湾をみんなに知ってもらいたいと思います。

①

「魚の庭」を守る取り組み

『栽培漁業』

「栽培漁業ってなに？」

「キジハタの栽培漁業」

豊かな海で

あり続けるために

「海のごみ問題」

「五年生のみんなに」

(1) あかねさんたちは、「豊かな海 大阪湾」の部分の記事について話し合っています。

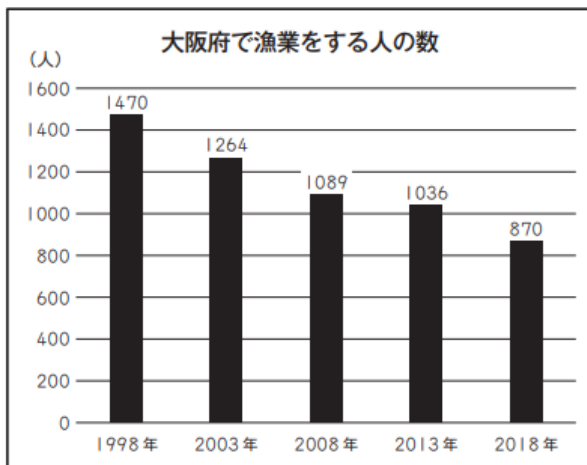
記事の ① の部分には、資料を入れるといいんじゃないかな。



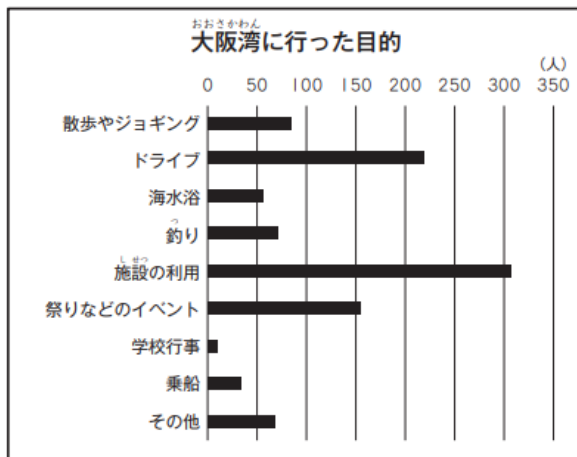
そうだね。記事の内容がよくわかる資料を入れるといいね。

問い 「豊かな海 大阪湾」の記事の ① の部分に入れる資料として、最もふさわしいものを、次の資料アからエの中から一つ選びましょう。

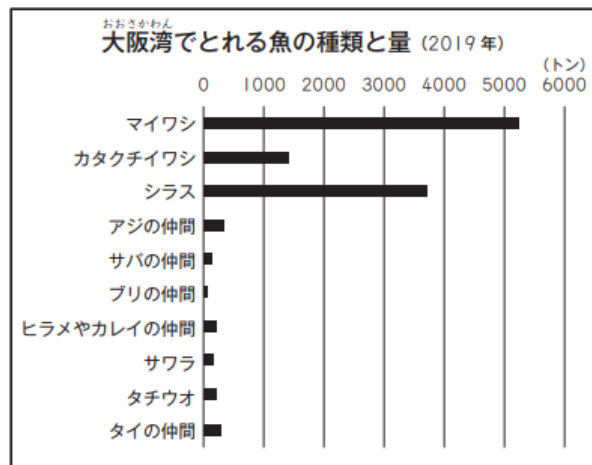
【資料ア】



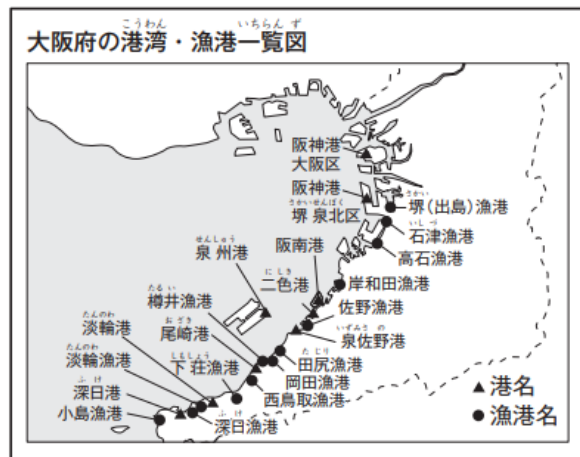
【資料ウ】



【資料イ】



【資料エ】



(2) あかねさんたちは、^{かべ}壁新聞の「魚の庭」を守る取り組み『^{さいばい}栽培漁業』の部分の記事について、次のようにまとめようとしています。

「魚の庭」を守る取り組み
『栽培漁業』

大阪湾では、魚をとるだけでなく、増やす取り組みもしています。その一つが栽培漁業です。
『栽培漁業ってなに?』

人が、魚や貝を卵からかえして、少し大きくなってから川や海に放流し、自然の中で育ったものをとる漁業のことです。


『キジハタの栽培漁業』

大阪湾では、一九九〇年には多くのキジハタがとれていました。しかし、一九九五年には、ほとんどとれなくなりました。

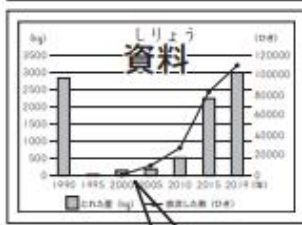
その後、

記事

キジハタ

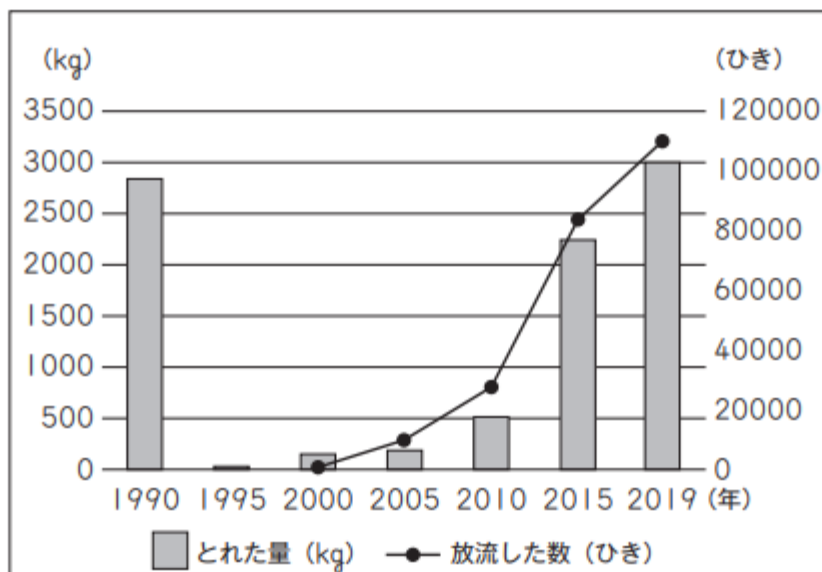


資料



資料

【大阪湾でとれたキジハタの量と栽培漁業で放流したキジハタの数の変化】



〔地方独立行政法人〕大阪府立環境農林水産総合研究所の資料により作成



あかね

[キジハタの栽培漁業] の部分の記事は、この資料の
グラフからわかることを書くといいね。

問い 資料からわかることをもとに、栽培漁業の効果がわかるように、
「キジハタのとれた量」と「放流した数」という2つの言葉を使って、
[キジハタの栽培漁業] の部分の記事の続きを書きましょう。

(3) あかねさんたちは、調べた資料の中から、海のごみ問題について
書かれた【リーフレット】をもとに、「豊かな海であり続けるために」の部分の
記事を書こうと考えています。

【リーフレット】

海に流れていくごみ

レジャーで出たごみ

街でのポイ捨て

大阪湾では、プラスチックごみが
漂流ごみ全体の約8割を
占めています。

プラスチック以外
食品包装材
レジ袋
ペットボトル

14%
33%
53%
その他
プラスチック

大阪湾に漂流するごみ(人工物)の種類
(平成27年度環境省調査より)

流れ着いたごみだらけの海岸

つばり
釣り針のついた釣り糸

細くなると回収も
むずかしくなります!

海のプラスチックごみは細かく砕かれてマイクロプラスチック*
になります。
*マイクロプラスチックとは、5mm以下のとても小さなプラスチックごみのことです。

直接海に捨てられたごみだけでなく、街中や山の中で不用意に捨てられたごみも、
雨や風で流されて、川から海へと運ばれてしまいます。

海ごみ・マイクロプラスチックが海的环境や生態系を破壊します。

ごみが打ち上げられた海岸

あみから
網が絡まったオットセイ

海の生物がマイクロプラスチックを
えさまちが
餌と間違えて食べることで、吸着し
た化学物質が取り込まれ、食物連鎖
へを経て、生態系に影響を与えること
が心配されています。

豊かな海で

あり続けるために

【海のごみ問題】

大阪湾には、いろいろなごみが流れてきています。


ごみが海に流れていくことで、

などの問題が起きています。

海のごみ問題の解決には、私たち一人ひとりが考えて行動する必要があります。

【五年生のみんなに】

記事

問い 【リーフレット】をよく読んで、海のごみ問題を1つ考え、【海のごみ問題】の  の部分にあてはまる記事を書きましょう。

また、【五年生のみんなに】の部分には、豊かな海をごみから守るために、学年のみんなに呼びかける記事を書きます。あなたなら、どんなことを呼びかけますか。呼びかける記事を書きましょう。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

○児童アンケートの分析結果から、以下のような質問が大阪府を基準として、強みや課題が見られました。本校児童の強みを伸ばしながら、課題を減らせるような授業改善や児童との関わり方の改善を図っていきたいと思います。

<強みの見られる質問>

- 人の話を聞くときは、その人が言いたいことは何かを考えながら聞く。
- 休み時間と授業時間との気持ちの切り替えができる。
- 悲しんでいる人を見ると、なぐさめたくなる。
- 人と対立しても、相手の考えや気持ちを理解しようと努力する。
- その時間のめあてを意識して学習している。

<課題の見られる質問>

- 予期しない出来事が起きた時、原因が分かるまで調べる。
- その時間に学んだことについて、ふり返りをしている。
- あなたは、困ったときに相談できる相手がいる。